

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 外国人学生の受け入れ環境を改善するために、生活及び学修相談を行う窓口を設置する。	→ 「学部の社会人学生・留学生・帰国生徒数」、「留学生の相談件数・相談内容の類型別件数」、「TA (Teaching Assistant: ティーチング・アシスタント)数」、「学部卒業生の進路データ(キャリアセンター提供)」、「学部でのコース別選択者数(司法コース選択者の%)」、「留学生のコース別内訳」	C	C	B	B	B
2. 学生の海外派遣、国連ボランティアの参加推進のために懇談会(説明会兼)を開催する。	→ 「懇談会開催数・参加人数・開催プログラム」、国連ボランティア(UNV)の参加者数	C	C	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に学部および大学院の国際化の推進に関する諸課題を審議し、改善するための施策を検討する国際化推進委員会を設置した。現在、外国人学生の受け入れ環境を改善するなどの取り組みについてもこの委員会で検討されている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際化推進委員会において継続して検討が進められているところであり、具体的な取り組みを行うまでには至っていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 外国人学生の生活および学習相談を行う窓口の設置など外国人学生の受け入れ環境の改善について、今後、国際化推進委員会における検討を継続し、その検討結果を踏まえて取り組んでいくことが予定されている。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学生の海外派遣, 国連ボランティアの参加推進のための懇談会は、2012年度以降継続的に開催している。併せて内容等の改善も図ってきている。また、国際的な活動に関心をもつ学生に対しては、1年時の段階でさらに関連する情報提供を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 懇談会における留学プログラム等に関するていねいな情報提供や留学経験者からの体験記等は極めて好評であり、学生の抱いている疑問や不安を解消し、強いインセンティブを与えており、今後、参加人数の増加が期待できる。他方、懇談会を実施する時期や提供する情報等については一部から不満もきかれるところである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 懇談会の開催は今後も継続して実施するとともに、その内容等の改善を図る。参加者アンケート等を踏まえて、実施時期、実施回数、提供する情報等、学生の多様な要求に即した、よりきめの細かなものとしていく予定である。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	0	0	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	0	0	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	11	12	9	12	10	8	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.4	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他(セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	11	12	15	19	12	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	50	50	50	60	68	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.4	0.4	0.5	0.7	0.4	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		1.7	1.7	1.8	2.1	2.4	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	2	2	1	1	1	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	4	3	4	3	2	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	30	32	30	26	27	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	1	1	1	1	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。